

## 屋外銅像・記念碑等

本学の校庭に建っている27個の彫像は、大半が本学の前身である東京美術学校・東京音楽学校（美校・音校）において大きな功績のあった人の像である。オーギュスト・ロダン原作の「青銅時代」および「バルザック像」は大正時代にフランス美術の紹介に努めた親日家デルスニスから寄贈されたもの（バルザック像は石膏像を本学鑄造研究室で鑄造）、保田龍門作「ベートーベン像」は徳川頼貞から寄贈されたもので、建立の主旨を異にする。美校・音校功労者の像のうち、全身像は美校校長岡倉天心・正木直彦の像の2個のみ、他は胸像とレリーフである。ほかに高村光太郎作の黒田清輝胸像と新田藤太郎作の大島如雲胸像も作られたが、今それらは大学美術館内に収蔵されている。美校の校庭には岡本金一郎作の「海辺の夏」、進藤武松作の「立てる男」などの秀作銅像も建っていたが、それらも今は大学美術館倉庫内にある。

美校は草創期から皇居前広場の「楠木正成像」や上野公園の「西郷隆盛像」をはじめとして数多くの銅像を製作したが、校内に功労者の銅像が建立されたのは割合あとのことで、明治43年に初代彫金教授加納夏雄の胸像が建立されたのが最初だ。この像は岡倉天心銅像と同じく美校草創期の制服・制帽を着用しているところに特色がある。後任教授にして一番弟子の海野勝珉が建設委員長となり、関係者から募金し、夏雄と面識のあった名望高い彫刻家米原雲海が原型を作った。盛大な除幕式、美校への贈呈式、園遊会や夏雄の作品の陳列が催されたと『東京美術学校校友会月報』が伝えている。以後の銅像も大体こうしたかたちで建立された。製作者は故人の弟子筋か、そうでないにしても一流の作家であって、いずれも美術作品として精彩がある。

戦前の日本には夥しい銅像が建っていたが、第二次大戦中の金属供出命令によって多くが鑄潰され、鉄砲の弾などにされてしまった。昭和18年、美校内の銅像も供出の危機に直面した。その際、美校当局はまず岡倉天心銅像について大東亜共栄圏文化振興上の意義を力説し、これとともに美校の銅像は美校教授にして明治・大正美術界の巨匠の像であり当代の名手が作った優秀作ばかりで、しかも彫刻や鑄金、建築の教育資料でもあるのだから、供出対象から除外してほしいと文部省に訴えた。その結果、一旦沙汰済みになったようだが、翌19年には東京都からの申し入れに対して竹内久一胸像と川端玉璋記念銅標（昭和7年結城素明らが建立。香取秀真作）を供出することとした。また、その年には下谷区から大島如雲胸像、白井雨山胸像、フェノロサ全身像（そんなものは存在しないのだから乱暴な話だ）を供出して貰いたいという申し入れがあった。しかしそれらはなぜか実施されず、美校の銅像はすべて難を逃れることができたのであった。

銅像・記念碑の建設場所には歴史的意味がある。加納夏雄胸像は金工部門の教室のそばに、白井雨山胸像は彫刻科教室のそばに、というように、はじめは縁のある場所を選んで建てられた。しかし、校舎の改築によって移設を余儀なくされたものも多い。音楽学部5号館前に白山松哉、津田信夫、香取秀真、海野勝珉ら美校工芸教官の像が建っているのは、その一帯が美校工芸部校舎であったことによる。岡倉天心銅像は旧美校本館前の特等地にある。横山大観らが発起人となり、天心を崇拜する平櫛田中が原型を作った。校長の椅子に座り、思索する姿だ。当時美校建築教官であった金澤庸治が設計した六角堂に安置されており、あたかも参拝者をいざなうかのようである。一方、正木直彦陶像は同じく校長の椅子に座っているけれども、正木記念館の入口の軒下に、天心銅像とは反対方向に向いてひっそりと建っている。こちらは建設経緯が特殊で、沼田一雅が正木に世話になったお礼に作って贈ったものだ。この二人の校長の背景にある歴史ドラマを思い浮かべながら見比べるのも面白いだろう。

（平成18年／教育資料編纂室：吉田千鶴子）



● 岡倉天心

1. 1862～1913年
2. 明治13年東京帝国大学卒業  
文部省に入り東京美術学校創立に尽力  
同20年同校幹事  
同23年校長兼教授  
同31年辞任日本美術院を創立  
日本美術院の復興に尽くす
3. 平櫛田中（昭和6年）



● 岡田三郎助

1. 1869～1939年
2. 洋画家 曾山幸彦 黒田清輝らに師事  
明治29年東京美術学校助教授同35年教授  
昭和12年第1回文化勲章受賞  
在官中死亡
3. 田辺至（昭和16年）アルミ合金製



● アーネスト・フェノロサ

1. 1853～1908年
2. 米国人 ハーヴァード大学卒  
明治11年来日  
東京大学で哲学を講じ、日本美術の復興  
をとなえ岡倉天心らと東京美術学校を創  
設美学美術史を講じた
3. 長原孝太郎原画（大正9年）石碑



● 久米桂一郎

1. 1866～1934年
2. 藤雅三に師事 明治19年フランスに留学  
西洋画を学び同26年帰国  
同29年東京美術学校嘱託となり西洋画科  
を創設 同31年教授 西洋美術史と美術  
解剖学を講じた  
昭和7年辞任
3. 北村西望（昭和11年）



● 橋本雅邦

1. 1835～1908年
2. 狩野派の画家 明治21年東京美術学校雇  
同23年教授となり横山大観・菱田春草ら  
を育てた  
同31年辞任  
日本美術院創立に参加 日本画の近代化  
に尽力
3. 白井雨山（大正2年）



● 白井雨山

1. 1864～1928年
2. 彫刻家 明治26年東京美術学校彫刻科卒  
同31年助教授  
同34年独仏に留学  
同37年帰国 教授となり塑造を教えた  
大正9年辞任
3. 建昌大夢（昭和4年）



● 大村西崖

1. 1868～1927年
2. 明治26年東京美術学校彫刻科卒  
同28年同校雇同29年助教授  
同35年教授  
在官中死亡  
東洋美術史研究者として知られる
3. 朝倉文夫（昭和3年）



● 川端玉章

1. 1842～1913年
2. 四条派の画家  
明治21年東京美術学校雇  
同23年教授  
同45年辞任
3. 武石弘三郎（明治44年）



● 寺崎広業

1. 1866～1919年
2. 日本画家  
明治30年東京美術学校助教授  
同31年辞任  
同34年同校教授大正7年辞任  
天籟画塾で多くの弟子を育てた
3. 内藤伸（昭和12年）

注1. 生没年  
2. 略歴  
3. 作者（制作年）



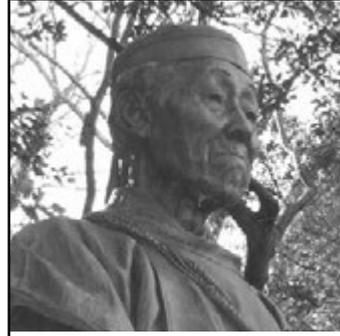
● 安井曾太郎

1. 1888～1955年
2. 洋画家  
浅井忠に師事明治40年フランスに留学  
大正3年帰国  
同4年二科会会員  
昭和11年一水会創立  
同19年東京美術学校教授  
同27年辞任 文化勲章受賞
3. 石井鶴三（昭和35年）



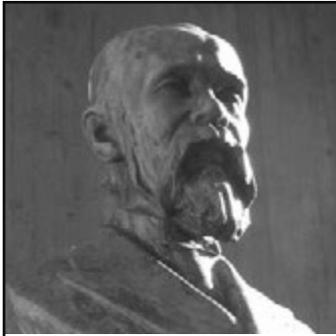
● 藤島武二

1. 1867～1943年
2. 洋画家 山本芳翠 黒田清輝らに師事  
明治29年東京美術学校助教授  
明治38年フランス留学  
同43年教授  
昭和12年第1回文化勲章受賞  
在官中死亡
3. 本郷新（昭和31年）



● 加納夏雄

1. 1833～1898年
2. 彫金家  
明治23年東京美術学校教授 在官中死亡  
片切彫にすぐれた
3. 米原雲海（明治43年）



● 石川光明

1. 1852～1913
2. 彫刻家  
明治23年東京美術学校雇  
同24年教授 在官中死亡  
牙彫を得意とした
3. 朝倉文夫（大正6年）



● 高村光雲

1. 1852～1934年
2. 彫刻家  
明治22年東京美術学校雇  
同23年教授 大正15年辞任  
伝統的木彫を守り多くの弟子を育てた
3. 高村光太郎（昭和10年）



● 竹内久一

1. 1857～1916年
2. 彫刻家  
明治21年東京美術学校雇  
同24年教授 在官中死亡  
古代彫刻を研究模作  
木彫の彩色に秀でた
3. 沼田一雅（昭和5年）



● 正木直彦

1. 1862～1940年
2. 明治25年帝国大学卒業  
同30年文部省視学官  
同34年東京美術学校校長  
昭和7年退官  
帝国美術院長  
美術研究所長となり美術行政に尽力
3. 沼田一雅（昭和11年）陶製



● 海野勝珉

1. 1844～1915年
2. 彫金家  
明治23年東京美術学校雇  
同24年助教授  
同27年教授  
在官中死亡  
象嵌をはじめすぐれた彫技で知られた
3. 海野美盛（大正8年）



● 香取秀真

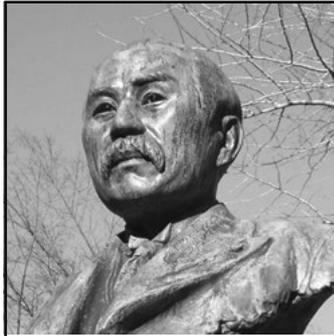
1. 1874～1954年
2. 鋳金家  
明治30年東京美術学校鋳金科卒  
同36年同校嘱託  
昭和8年教授  
同18年辞任  
金工史を講じ歌人としても知られる  
文化勲章受賞
3. 平櫛田中 菅原安男（昭和30年）

注1. 生没年  
2. 略歴  
3. 作者（制作年）



㊸ 津田信夫

1. 1875～1946年
2. 鑄金家  
明治33年東京美術学校鑄金科卒  
同3年同校助教授  
大正8年教授  
昭和19年辞任  
大正12年欧米に留学  
帰国後新興工芸運動に尽力した
3. 沼田一雅（昭和22年）



㊹ 白山松哉

1. 1853～1923年
2. 漆芸家  
明治24年東京美術学校雇  
同25年教授 在官中死亡  
蒔絵を得意とした
3. 水谷鉄也（昭和4年）



㊺ レオニード・クロイツァー

1. 1884～1953年
2. ロシア生れのピアニスト  
ベルリン音楽大学教授  
昭和8年来日  
同13年以来東京音楽学校および本学で多くの門下を育てた
3. 山本豊市（昭和31年）



㊻ 伊沢修二

1. 1851～1917年
2. 明治8年米国に留学教育学及び音楽を学ぶ  
同12年音楽取調掛  
同20年東京音楽学校創設に尽力  
同21年から同24年まで校長
3. 長谷川義起（昭和5年）



㊼ 小山作之助

1. 1863～1927年
2. 明治20年東京音楽学校取調掛全科卒  
同25年東京音楽学校助教授 同30年～38年同校教授を歴任  
この間に〈夏は来ぬ〉〈川中島〉〈敵は幾万ありとも〉などの唱歌や軍歌を多数作曲した
3. 長谷川義起（昭和4年）



㊽ 白浜徴

1. 1865～1927年
2. 明治27年東京美術学校日本画科卒  
同28年高等師範学校助教授  
同34年東京美術学校教授  
同40年国画師範科初代教授  
図画教育に尽力  
在官中死亡
3. 水谷鉄也（昭和2年）同6年建設



㊾ 黒田清輝

※大学美術館内収蔵

1. 1858～1940年
2. 洋画家  
フランスでラファエル＝コランに師事し外光派を学ぶ 帰国後、白馬会を創立し美術運動を展開 明治31年西洋画科初代教授 文展および帝国美術院の創立に尽力 代表作「読書」「朝妝」など
3. 高村光太郎（昭和7年）



㊿ 大島如雲

※大学美術館内収蔵

1. 1866～1924年
2. 鑄金作家  
大正7年教授  
蠟型鑄造法に長じ、精緻な作品を残す
3. 新田藤太郎（昭和15年）

注1. 生没年  
2. 略歴  
3. 作者（制作年）



① 青銅時代

オーギュスト・ロダン (1840～1917)  
ブロンズ全高 182cm  
大正14年  
デルスニス氏寄贈



② バルザック像

オーギュスト・ロダン (1840～1917)  
ブロンズ全高 280cm  
昭和8年  
デルスニス氏石膏像寄贈  
昭和46年8月25日  
鑄造



③ ベートーベン像

保田龍門 (1891～1965)  
ブロンズ高60.7cm  
再興第12回院展出品  
昭和13年3月徳川頼貞氏寄贈

- 注1. 生没年  
2. 略歴  
3. 作者 (制作年)

写真撮影 今 義典 (平成17年/写真センター)



◆ ショパン胸像

ショパン生誕200年を記念して、駐日ポーランド共和国大使館より本学へショパンの胸像が寄贈されました。平成22年5月22日、音楽学部校内で除幕式開催。